

食品添加物の米国の規制動向と課題

2025年6月16日(月)午後3時~5時

参議院議員会館 地下1階 B109

・米国保健福祉省長官のタール色素禁止発言

・天然色素の3品目の承認の公表 2025年5月9日

	添加物の名称	備考
1	Calcium phosphate Innophos 社(米国)	2025年5月12日承認、 6月11日までパブコメ
2	Galdieria extract blue Fermentalg 社(仏)	2025年5月12日承認、 6月11日までパブコメ
3	Gardenia blue 企業集団(日本)	
4	Butterfly pea flower extract. Sensient colors 社(米国)	2025年5月12日承認、 6月11日までパブコメ 認可済(21CFR 73.69) 今回は使用基準の拡大

4月22日、米国保健福祉省(HHS)と米国食品医薬品局(FDA)が公表した早期承認の天然色素4品目のうちクチナシ青は、承認されていません。(修正チラン作成時点)

・欧米への加工食品の輸出拡大の障壁(天然色素4品目)の現状(クチナシ青色素、クチナシ黄色素、ベニコウジ色素、ベニバナ色素)

・既存添加物の安全性確認(95年国会付帯決議)の進捗状況

添加物公定書の諸課題、第11版に向けて

- ・アラビアガム(タルハガムの取扱い)
- ・アントシアニン系色素の確認試験の不備
- ・グアーガムのアレルギー
- ・クチナシ黄色素のゲニポシド
- ・コチニール色素のたんぱく質とアレルギー
- ・水溶性アナトーの水銀
- ・スクラロースの定量法
- ・スクラロース等の人工甘味料の不純物
- ・精製カラギナンのポリギナン(低分子物質)
- ・天然色素の「他の色素」(特にタール色素)
- ・チョーマメ色素(一般飲食物添加物)の蛋白
- ・ベニコウジ色素のシトリニンとモノコリン K
- ・紫トウモロコシ色素のカビ毒(フモニシン)
- ・紫トウモロコシ色素の基原(cob の取扱い)
- ・ルチンの基原の監視

* 経緯もご紹介します。例えばアラビアガムの本質については、第8版添加物公定書作成の過程で提出された業界の意見が無視。

開会:15:00

ご出席議員のご紹介とご挨拶

1. 人工甘味料 スクラロースの不純物(スクラロース-6-アセテート)の定量

八田純人 先生(一般社団法人農民連食品分析センター 所長)

2. 米国のタール色素の使用禁止と天然色素3品目の承認、日本の食品添加物規制の課題

中村幹雄(第8版添加物公定書検討会委員、元消費者庁食品表示一元化検討会委員、局方作成に従事)

3. 他のテーマ(調整中)

質疑、事務局連絡等、閉会:17:00

定員:78名(定員にて締切) 定員を超えて受付できないときのみ御連絡いたします。

資料代等(資料代等):国会議員・秘書等、マスコミ:無料、個人:1,000円、企業・団体等:2,000円

参議院議員 伊藤孝恵事務所

申し込み:特定非営利活動法人 食品安全グローバルネットワーク 中村幹雄

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目2-12 CSビル3階

FAX:06-6305-8614 メール:mikio@nakamura.in 携帯:090-3280-4181